

第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画 進捗管理・評価シート(令和5年度事業)

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|--------------------------------------|--------------------|---------|-----------------------|----------------------------------|-------------------------|----|---|--------------------|---|-------|
| 基本目標1 地域で支えあう取組を推進します | | | | | | | | | | |
| 施策1 地域福祉を推進する意識啓発と担い手育成を進めます《重点施策》 | | | | | | | | | | |
| 取組内容 01]市民に対する意識啓発や参加促進、人材育成等の総合的な支援 | | | | | | | | | | |
| 1 | 市民に対する啓発の推進 | 市民活動推進課 | 地域づくりコーディネーター養成講座実施回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 10 10 10 | 回 | ①地域活動に興味がある市民を対象に、多様な主体の橋渡しを行う「地域づくりコーディネーター」の育成を目的とした講座「かまがや地域づくりコーディネーター養成講座2023」を10回実施した。 ②その結果、延べ133人の参加があった。 | A順調に進んでいる | ①引き続き、「地域づくりコーディネーター養成講座」の受講者がコーディネーターとして活動しやすい環境を創出できるよう、市が「地域づくりコーディネーター」を認定する制度を実施する。 ②ボランティア活動等を行う際は、今後必要となる地域活動やコーディネーターとしての活動を検討し、必要に応じて市民活動推進センターやコーディネーターへの相談などもご活用いただきたい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | ボランティア育成に関する講座実施回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 3 7 9 | 回 | ①ボランティア活動に関心のある方や活動中のボランティアに対し、段階的に各種講座を開催。市広報紙・社協広報紙・HPの掲載、またチラシ・ポスターを公共施設等に配布し、ボランティアに関する情報を発信した。 ②活動内容に特化したテーマで開催したことが、ボランティアのモチベーションアップにつながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①PCやスマートフォンの利用者の増加に伴い、様々な情報発信は従来のチラシ配布の他、SNS等を活用した情報発信に努める。 ②各種講座開催にあたり、講師として資格や経験のある市民の協力を呼びかけ、多くの方が参加できるよう参加を促していただきたい。 | B継続 |
| 2 | ボランティアの活動しやすい環境づくり | 市民活動推進課 | 情報提供数(チラシ掲示、HP記事掲載) | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 266 294 276 | 件 | ①ボランティアが活動しやすい環境となるよう、市民活動推進センターにおいて、チラシやポスターの掲示、HPの記事掲載などを行い、市内外のボランティア関連情報などを周知した。 ②チラシの掲示(272件)、HPの記事掲載(4件)などを行い、ボランティア活動の情報提供やボランティア、市民公益活動、地域活動を希望している人をつなぐ窓口を充実させた。 | A順調に進んでいる | ①広報かまがや、ホームページ及び市民活動推進センターでの情報発信に加え、SNSなどのデジタルツールを用いて、市主催事業の周知に努める。 ②市主催事業を実施する際のチラシ等の掲示にご協力いただきたい。 | B継続 |
| | | 市民活動推進課 | ボランティアに関する相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 80 60 75 | 件 | ①ボランティアが活動しやすい環境となるよう、市民活動推進センターにおいて、市民や団体などを対象に相談事業を行った。 ②市民公益活動などに詳しい専門相談員(協働アドバイザー)による相談事業を実施し、延べ75件の相談を受け、活動における課題整理や解決のための助言などを行った。 | A順調に進んでいる | ①市民公益活動団体等が抱える課題は変化しているため、多様な相談に対応できるよう体制を整える必要がある。 ②ボランティア活動などで課題を抱える市民や団体がいる場合には、市民活動推進センターで行っている市民公益活動相談なども積極的にご活用いただきたい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | ボランティアに関する相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 2,834 2,962 2,612 | 件 | ①地域のボランティア情報や福祉ニーズの把握など、福祉活動に繋がるボランティア活動の情報収集と情報提供、ボランティア窓口として連絡調整等に努めた。 ②新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられたことにより、徐々に施設でのボランティアの受入れが再開し、新たな依頼や相談が増えたことで、ボランティアのモチベーションアップにもつながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①ボランティア活動を通じて、人と出会い、つながり合い、学び合い、地域活動を通して社会参加できるよう市民に多くの体験メニューを提供し、ボランティア育成に努める。 ②事業の周知を図っていただき、積極的な地域活動へのご協力をいただきたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|--------------|---------|-------------|----------------------------------|----------------|----|---|--------------------|---|-------|
| 3 | 地区社会福祉協議会の活動 | 社会福祉協議会 | ボランティア育成事業数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 15 30 41 | 回 | ①5月に新型コロナウイルスが2類から5類に引き下げられたことにより、申込制の継続など感染防止策を講じつつも参集型の事業の開催や研修会、バス研修等を実施した。 ②事業実施回数が増えたことで、事業への参加者が増え、参加者に対して地域活動の楽しさや、地域の繋がりの大切さを発信することができた。また、地区によっては小中学校と協力し、事業を実施することで、世代間交流を図り、ボランティアに触れるきっかけをつくることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①参加者が固定される傾向にあるため、事業内容に変化をつけ、より多くの方に興味を持ち参加してもらえるように工夫をしていく。 ②事業へ参加された後、地区社協活動や自治会活動等、地域活動への積極的な参加をお願いしたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|-------------------|-----------|--------------|----------------------------------|-------------------|----|---|--------------------|--|-------|
| 4 | 子育てサポーターの人材育成 | 子育て支援センター | サポーター研修の実施回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 9 9 12 | 回 | ①養成講座を1回開催し、6名の新規サポーター登録があった。 また、子育てサポーター研修は12回開催し、2月は外部講師を招いての講演会を、3月は機中八策講座を開催した。 ②研修を通じ、子育てサポーターの質の向上につながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①定期的な研修を開催し、保護者とかかわり方や相談事案への寄り添い方などサポーターの質の向上が必要である。 ②地域の子育て支援拠点において活動するサポーターへの参加協力 | B継続 |
| 5 | ファミリー・サポート・センター事業 | こども総合相談室 | 提供会員数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 164 164 157 | 人 | ①子育て世帯が多く利用する施設などへの会員募集ポスターの掲示を行った。より利用しやすい制度とするために利用対象年齢の引き下げを実施した。提供会員を増員するために提供会員募集のポスター作製を行った。 ②提供会員数は減少したものの、利用件数は3,921件と、令和4年度と比較して1,276件の増となっている。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①援助ができる提供会員数が減少していることから、提供会員募集について、増員を図るとともに、研修等によりヒヤリハット等の危機管理能力の向上を図り、引き続き、安心安全な支援体制を整備していく必要がある。 ②サポートを提供することができる方、サポートが必要な方が地域にいた場合には案内をお願いしたい。 | B継続 |
| 6 | ふれあいサービス事業 | 社会福祉協議会 | 会員数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 59 54 80 | 人 | ①会員相互の安心・安全対策を講じ、会員の自立に向けた支援を行った。 協力会員向けの登録会・研修会を6回開催し、広報紙・チラシ等で会員募集と事業の啓発に努めた。 ②新規協力会員12名の登録や、市民、関係機関への事業周知につながった。(利用会員数:55名、協力会員数:25名) 活動回数の増加につながった。 令和4年度活動回数236回、令和5年度活動回数535回 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①利用希望者は増えているが担い手が不足しているため、継続して協力会員募集の周知を行い、担い手の確保に努める。協力会員向けの研修会を開催し、会員の知識と意欲の向上に努める。 ②協力会員募集の周知をお願いしたい。また、行政関係機関との協力により、研修会の充実を図っていきたい。 | B継続 |

取組内容 02]将来の担い手育成の支援

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|---------|---------|----------------------------------|---------------|---|---|--------------------|--|-----|
| 7 | ボランティアの育成と連携機能の強化 | 学校教育課 | 参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 58 73 | 人 | ①ボランティア育成として千葉県赤十字の制度を利用したトレーニングセンター(研修名)を小学校は8月2日に初富小学校にて、中学校は8月1日に赤十字会館で他の生徒と合同で行った。スタディーセンター(研修名)は小学校は10月27・28日の一泊で千葉市少年自然の家で、中学校は3月16日の日帰りで赤十字会館で他の児童生徒と行った。 ②センターでの研修修了者が学校のリーダーとして活躍した。 | A順調に進んでいる | ①コロナ禍が明け、これまでの実施の形に戻りつつある。しかしながら、青少年赤十字は学校の先生が指導者になることとなり、人の入れ替え等で以前の実施方法を知らない教員が増えてきている。また、研修修了者が活躍する場が学校に限られており、活動に広がりが見られない。 ②児童生徒がボランティアとして活躍できる場があれば、提供していただきたい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | 夏休み福祉体験 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 6 9 | 回 | ①ボランティアに参加しやすい夏季休暇中に、福祉への理解を深める目的で、児童・生徒・大学生向けに、ボランティア団体や地域と連携し、ボランティア活動が体験できる「夏休み福祉体験」(参加総数35名)を開催し、将来福祉の担い手となるきっかけづくりとして、身近な場所での活動メニューを新たに加え、ボランティア育成に努めた。 ②体験コースを増やしたことに伴い、体験者が増えボランティアの育成につながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①幅広い世代の人とつながりができるボランティア活動の魅力を伝え、ボランティア活動への理解と関心を深められるよう、引き続き活動メニューを広げ実施する。 ②事業の周知をお願いしたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|------------|---------|------------|----------------------------------|-----------------|----|---|--------------------|---|-------|
| 8 | 福祉の学習機会の推進 | 高齢者支援課 | 開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 6 13 15 | 回 | ①認知症サポーター養成講座を14回、認知症サポーターレベルアップ講座を1回実施した。 一般市民向け7回、地区ふれあい員1回、鎌ヶ谷市職員向け1回、企業・団体・事業所等4回、小学校1校実施したほか、レベルアップ講座を1回実施し、18名が受講した。 ②認知症に関する理解が深まった。 地域でのボランティア活動に繋がるようしている。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①小中学校の開催回数を増やしていく。企業・団体等の開催回数を増やしていく。認知症基本法と認知症サポーター養成講座の教材が改定されたことを考慮した内容としていく必要がある。 ②多くの小中学校や地域、企業で講座開催について検討してほしい。 | A充実 |
| | | 社会福祉協議会 | 参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 99 78 308 | 人 | ①市内小学校や行政で行う福祉体験等にボランティアの協力を得て講師を派遣し、福祉の理解を深める学習機会に協力した。また、社協職員による福祉についての講義形式での福祉学習を行った。 ・東部小 講義・福祉体験(2回開催、各99名)・南部小(29名)・西部小(81名) ②地域のボランティアとの交流を通して”おもいやりの心”を育むことにつなげた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①小学校での福祉体験については、車椅子・アイマスク・手話・点訳・高齢者疑似体験等、障がいについて理解が深まる内容であり、児童の思いやりを育てる福祉教育の一環として、今後も関係者との連携に努める。 ②地域や小学校等の福祉体験では、職員派遣や体験内容相談等ができるので、事業の周知をお願いしたい。 | B継続 |

施策2 地域でのふれあい、支えあいを進めます

取組内容 03]活動拠点の支援と活用

| | | | | | | | | | | |
|----|----------------|---------|----------------|----------------------------------|----------------------------|---|---|--------------------|--|-----|
| 9 | 地域活動支援センターへの支援 | 障がい福祉課 | 地域活動支援センター利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 30 31 22 | 人 | ①鎌ヶ谷市の援護する障がい者の通所する地域活動支援センターⅢ型事業所(市内2か所、市外1か所)に対して補助金を支出した ②地域において雇用及び就労が困難な在宅障がい者に対し、生産活動の機会提供などの支援を行ってきた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①Ⅲ型事業所への通所者が減少していることが課題であり、就労系事業所にはない、Ⅲ型のメリットを打ち出すことにより、障がい者をⅢ型事業所につなげ、日中活動の場を提供していく。 ②地域との結びつきを重視し、日中活動の場を探す障がい者と、事業所を結ぶネットワークを構築する。 | B継続 |
| 10 | 自治会集会所整備に対する支援 | 市民活動推進課 | 自治会集会所整備件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 3 2 3 | 件 | ①富岡自治会集会所借家事業、北初富第五自治会集会所修繕事業について支援を行った。 ②福祉活動など地域コミュニティ活動のほか、災害時の一時避難施設として集会所を活用できることで、自治会活動のより一層の充実を図ることができた。 | A順調に進んでいる | ①集会所の老朽化が進んでいる自治会については建替や修繕事業を、集会所を持たない自治会については借家事業を案内するなど、地域の実情にあった自治会集会所の計画的な整備を支援する。 ②集会所整備にかかる自治会内での合意形成が必要。 | B継続 |
| 11 | 社会福祉センター(活動拠点) | 高齢者支援課 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 11,193 12,759 15,455 | 人 | ①健康増進体操、陶芸、手工芸、書道など各種講座を開催するとともに、来館者の健康相談を実施した。 また、各種サークル団体の活動支援を行った。 ②高齢者の憩いの場として活用され、趣味の幅を広げることにつなげることができた。 | A順調に進んでいる | ①各種講座や講習会等を充実させ、利用者数の増加を目指していく。 ②社会福祉センターは他の公共施設と比べ、高齢者が集う施設であることから、自身を感染から守るため、利用者には、検温、マスクの着用、手指消毒等の感染症対策にご協力いただく。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|--|--------------------------|---------|--------------------|----------------------------------|-------------------------|----|--|--------------------|--|-------|
| 取組内容 04]ふれあい・支えあい活動に対する支援 | | | | | | | | | | |
| 12 | 地域の交流イベント等への参加への支援 | 健康福祉部 | 福祉健康フェア入場者数(社会福祉課) | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 0 0 | 人 | ①新型コロナウイルスワクチン接種等により、総合福祉保健センター全体を用いた開催が困難であったことから、本庁舎1階市民ホールにて、福祉関係団体による紹介を展示する形式での開催となった。 ②本庁舎1階ホールにて展示を行うことで、福祉関係団体の活動を知ってもらう機会となった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①新型コロナ拡大前は、センター全体を用いた形式にて開催してきたが、今後フェアのあり方について、どのような形式がよいのか、そもそも開催を継続すること自体、有用であるか、見直しを含めて検討する必要がある。 ②フェアの開催可否やあり方について、関連団体の意見も聴取しながら、方向性を定める。仮に開催することとなる場合、実行委員会を通して関連団体へ事業参加の協力を依頼する。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | すまいる祭り入場者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 106 189 | 人 | ①市内の商業施設3か所と、市役所市民ホール等公共施設3か所の計6か所に、市内障がい福祉サービス事業所(16事業所)のパネル展示を実施。また、市役所市民ホールでは手作り品の販売も行い、障がい者福祉についての啓発に努めた(販売のみの参加事業所もあった為、合計参加事業所数は17事業所)。 ②障がい福祉に関するクイズへの応募者数が189名あり、多くの方々に関心を持ってもらうことができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①パネルの設置には多くのスペースが必要であり、そのスペースを確保できる展示会場を探すことに苦慮している。 ②展示会場に関するご協力や情報提供をお願いしたい。また、一人でも多くの方に展示を見ていただきたく、事業の周知へのご協力もいただきたい。 | B継続 |
| 13 | 老人クラブへの支援 | 高齢者支援課 | 会員数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1,109 1,038 972 | 人 | ①単位老人クラブへの活動支援を行うとともに、老人クラブ連合会の事業として、各種スポーツ大会、カラオケ大会、作品展、芸能交流大会、老人クラブ大会、会報紙発行、手工芸教室、友愛訪問を実施した。 ②高齢者の健康増進、地域社会との交流促進につなげることができたほか、各単位老人クラブの新規会員の加入につなげることができた(全体の会員数はクラブの廃止により減少)。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①事業計画で決定した老人クラブ連合会の事業(各大会、作品展等)を着実に実施するとともに、各単位老人クラブには、補助金を交付し、活動を支援していく。また、様々な媒体を活用し、老人クラブの活動を周知していく。 ②各事業について、老人クラブ連合会の各実行委員会が中心となって検討・実施いただくとともに、会報紙等を発行し、活動を周知することで、新規加入を促進する。 | B継続 |
| 14 | 活動希望団体への助言支援 | 高齢者支援課 | 憩の家 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 11 10 10 | 箇所 | ①老人憩の家について、基本委託料のほか、特別な事業(体操、地域交流、世代間交流等)を実施した際、追加で委託料を支払うことで、運営を支援した。 また、広報紙、市ホームページ、パンフレット等により周知を図った。 ②地域の交流の場として、老人憩の家を10か所指定し、高齢者の社会参加につなげることができた。 | A順調に進んでいる | ①新規の老人憩の家の指定について、市民から相談があれば、現場調査等を行い、調整していく。また、憩の家の課題を整理し、必要に応じて、運営要綱を見直ししていく。 ②老人憩の家の活動について、広く周知いただき、利用者の増加を図る。 | B継続 |
| 取組内容 05]市民との協働による地域福祉活動の支援 | | | | | | | | | | |
| 15 | 自治会加入促進事業・市民活動応援補助事業 | 市民活動推進課 | PRチラシ配布数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 6,000 6,000 6,000 | 枚 | ①自治会加入促進月間を令和6年3月に実施し、鎌ヶ谷市自治会連合協議会と協働でPRチラシの配布や加入促進活動に取り組むことができた。 ②新たに開発があった地域等で、加入増につながった例がみられた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①引き続き、市と自治会連合協議会とで加入促進に取り組む。また、自治会役員の高齢化や単身世帯を中心とした未加入者の増加といった課題についても取り組む。 ②加入促進チラシの配布。 | B継続 |
| 取組内容 06]学習の場や社会参加等を通じたふれあい機会づくり | | | | | | | | | | |
| 16 | 成人講座、ふれあいまつり等の学習センター主催事業 | 生涯学習推進課 | 各学習センター主催事業の参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 716 5,964 11,086 | 人 | ①生涯学習を推進するため、生涯の各時期に応じた多様な学習機会の提供、グループやサークルの主体的学習活動の支援及び学習成果の発表など、各種事業を行った。(初心者向けスマートフォン講習会、子どもワークショップ、公民館まつり等) ②各館で42事業を実施、11,086人の参加があった。 | A順調に進んでいる | ①多様化する市民の学習ニーズに対応した事業を企画していく。 ②各学習センター主催事業に積極的に参加していただきたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|----------------|--------------|-----------------------|----------------------------------|--------------------------|----|--|-----------|--|-------|
| 17 | かまがやまなびい大学 | 生涯学習推進課 | 学部主催講座と講師派遣事業の受講者数の合計 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 3,168 7,814 11,852 | 人 | ①行政の各部ごとに学部を設置し、学部ごとに主催講座を企画した。また、職員を講師として市民団体などの研修会や講習会に派遣した。 ②学部主催講座 6講座 744人 講師派遣事業 309件 11,108人 | A順調に進んでいる | ①講師派遣メニューを充実させ、広報紙や市ホームページを活用し、事業の認知度を高める。 ②市民団体などの研修会で講師派遣事業を活用いただきたい。また、学部主催講座に積極的に参加していただきたい。 | B継続 |
| 18 | 社会参加促進事業 | 身体障がい者福祉センター | 受講者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 904 943 1215 | 人 | ①通常講座12種類16講座169回、特別講座5種類14回、新たに作品展を5日間と講座体験を3回実施した。また、県障がい者スポーツ大会への参加支援を4回行った。 ②通常講座では全面的に対面で実施した。講師都合で休講した7回があったが、うち3回はスタッフのみでポッチャを実施し継続することができた。また、特別講座や作品展・講座体験を通して新規登録者を8人増加することができた。県障がい者スポーツ大会には5人が参加したが、そのうち2人が全国大会に出場し、うち1人が令和5年障がい者スポーツ功労者として千葉県障がい者スポーツ協会から表彰を受けた。 | A順調に進んでいる | ①センターの事業に参加する身体障がい者は高齢化しており、けがや疾病により通えなくなる場合が増加している。身体障がい者の社会参加の機会となるよう、今後も特別講座や作品展・講座体験を計画し、新たな参加者を増加させていく。 ②車椅子等を利用している人と知り合った場合には、身体障がい者福祉センターを紹介していただきたい。また、センターで行われる事業において健常者の参加を募る場合には是非参加していただき、身体障がい者との交流の機会を持っていただきたい。 | B継続 |
| 19 | 世代間交流の充実 | 幼児保育課 | おじいちゃん先生雇用人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 4 4 4 | 人 | ①少子化、核家族化の進行する中で、保育園において人生経験豊かな中高齢者を、保育士の補助をする職員として雇用。 ②各公立保育園で1名合計4名の採用。日常保育の中で遊び等を通じて中高齢者と触れ合うことにより乳幼児の豊かな情操を育むことに寄与した。 | A順調に進んでいる | ①安定した人員の確保 ②人員確保のため、地域での就労希望者の紹介 | B継続 |
| 20 | シルバー人材センターへの支援 | 高齢者支援課 | 会員数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 532 537 522 | 人 | ①シルバー人材センターへ補助金を交付し、運営の支援を行うとともに、会員の募集及び各種講座など自主事業を開催時に広報紙で周知を図った。 ②会員数は横ばいで維持されるとともに、高齢者の就労機会の確保や社会参加の促進につなげることができた。 | A順調に進んでいる | ①会員の平均年齢が上がっているとともに、会員数が横ばい傾向となっていることから、会員の増加に向け、シルバー人材センターへ活動支援を行い、就業の確保を図っていく。 ②会員の増加に向け、様々な媒体を通じて、周知をお願いしていく。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|--------------------------------------|-----------------|---------|-----------------|----------------------------------|--------------------|----|---|--------------------|--|-------|
| 基本目標2 必要な相談・情報・支援が得られる仕組みを推進します | | | | | | | | | | |
| 施策3 地域における包括的な支援ネットワークづくりを進めます《重点施策》 | | | | | | | | | | |
| 取組内容 07]地域包括ケアシステムの深化・推進 | | | | | | | | | | |
| 21 | 生活支援体制整備事業 | 高齢者支援課 | 開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 14 14 25 | 回 | ①6圏域の地域(コミュニティエリア)の実情に合わせた第2層協議体等の開催を行った。 各生活圏域で課題となったものについて、地域の方と話し合い取り組みを行った。 ②地域での活動を実施したことで地域の見守りや活性化、閉じこもりがちの方が外に出るきっかけづくり等につなげることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①地域での課題や実情に合わせた取り組みができるよう話し合いを継続的に行う。 ②地域の方に一緒に取り組めるよう周知してほしい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | 生活支援体制整備事業の実践回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 24 87 221 | 回 | ①6圏域の地域(コミュニティエリア)それぞれに配置した生活支援コーディネーターを中心に、多くの協議体では、公民館等の公共施設だけでなく、自治会館や薬局等、地域の自治会や企業の協力をいただきながら、住民の皆様にとって「より身近な場所」で介護予防体操、講座等を開催した。 ②それぞれの会場では、「公民館には行けないけれど、ここには来れた」という感想を聞くことが多く、長距離の移動が難しい方など多様な方々の参加につなげることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①会場の確保や運営ボランティアの確保、運営スタッフの駐車場の確保に苦慮している。 ②必要な方に本事業の情報が届くよう、周知をお願いしたい。また、会場や駐車場の提供、特技の提供等ボランティアとしての参加とご協力もお願いしたい。 | B継続 |
| 22 | 地域包括支援センター | 高齢者支援課 | 相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 334 386 1141 | 件 | ①権利擁護(成年後見・虐待・支援困難ケース)、介護予防ケアマネジメント及び地域ケア会議等を行った。 ②各地域包括支援センターに訪問依頼を行い、医療や介護サービス等に迅速に繋げることができた。基幹型地域包括支援センターが直接訪問し、対応することもできた。各地域包括支援センターと基幹型包括支援センターが連携し役割分担や迅速な対応ができるよう協力調整することができている。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①迅速かつ明確に支援ができるよう各地域包括支援センターと基幹型地域包括支援センターの連携を強化する。市で実施している事業内容を把握し適切なサービスに繋げるよう取り組む。 ②共生社会、地域包括ケアシステムの理解をしていただき、地域全体で高齢者の見守り体制を整えて、必要時に関係機関に情報提供できるようにしていただきたい。 | B継続 |
| 23 | 在宅医療・介護連携の推進 | 高齢者支援課 | 研究会や講演会の実施回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 20 20 23 | 回 | ①世話人(医師会・薬剤師会・リハ職・看護職・ケアマネジャー・包括など医療介護連携推進・研修会の企画実施に当たり各種の代表者)を3部会に分け、各部会で活動。世話人全体での会議は1回実施。研修部会会議4回、広報部会会議9回、認知症部会会議8回実施。全体研修は2回実施。ZOOMおよび人数制限ありの会場開催1回、会場のみ事例検討含めた開催1回実施。 ②様々な会議開催により、顔の見える関係づくりができている。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①定期的に研修会、部会を開催し連携体制の強化を図る。医師会、連携室と協働し事業を実施していく。病院の相談員と連携し入退院支援等の強化を図る。 ②地域の医療機関や介護施設で顔の見える関係づくりや情報の共有、課題の共有などを積極的に行ってほしい。 | B継続 |
| 24 | 認知症施策の推進 | 高齢者支援課 | 会議開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 20 12 19 | 回 | ①認知症相談事業での月1回の勉強会12回、認知症カフェ会議2回、キャラバン・メイト会議1回、認知症地域支援推進員による認知症施策についての会議を4回実施。 ②地域での協力者(オレンジサポート員、ボランティア)の活動推進を行い、各地域で広がりがつつある。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①認知症関連事業への地域での協力者の育成、活動支援が必要である。認知症の本人の理解、本人の声を聴く機会が必要である。 ②認知症カフェ等の認知症関連事業に積極的に関わり、地域での繋がりを維持拡大してほしい。認知症の知識だけでなく、本人の気持ちを理解し、地域で見守ってほしい。 | A充実 |
| 25 | 介護予防・日常生活支援総合事業 | 高齢者支援課 | 市独自サービス事業所数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 46 46 64 | 箇所 | ①通所型サービスA、通所型サービスC、生活支援サービスの実施継続。 ②利用者のサービス利用の状況により、選択肢の幅が広がりがり4年度と比べ利用者の増加につながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①通所型サービス・生活支援サービス事業所の増加を図る。 通所型サービスCは令和6年度には委託をする。 ②見守り等地域での担い手となる活動をお願いしたい。事業者には新規参入してほしい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|--------------|---------|-----------------|----------------------------------|-------------------|----|---|--------------------|---|-------|
| 26 | 一般介護予防事業 | 高齢者支援課 | 運動教室参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 145 145 169 | 人 | ①作業療法士による全5回の運動教室を実施。関節の痛み等あり悩んでいる方に柔道整復師が行う全12回の講座を実施。言語聴覚士により嚙下に関する講座を1回実施。 ②複数回実施した講座は体力測定を行い初回と最終回で結果に改善がみられた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①定期的な講座の開催や健幸サポーター(指導者として体操を実施)の継続的な講座を開催し地域での活動場所や通いの場を増やす。 ②講座終了後も地域住民が気軽に集まって体操を実施できる場所の提供をお願いしたい。 | A充実 |
| | | 健康増進課 | 健康づくりボランティア参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 45 31 32 | 人 | ①ボランティア定例会は、5回開催。ボランティア活動は、体操の会や談話室等で38回実施、延べ1355人参加。きりぎりす谷体操自主活動は市内6か所で活動、計260回、延べ5541人参加。 ②全体会では、スキルアップ研修で「雰囲気づくりのレクリエーションと温かやりとりの会話術」を学び、活動の中で、学んだレクを活かす様子あり。ボランティア通信の送付や、ボランティア共通の会員証を配布することで、参加者のモチベーションを保つことができた。また、ボランティアの呼びかけで、1名新規加入し、休止していたメンバーも活動を再開した。 | A順調に進んでいる | ①ボランティアの高齢化で登録数が減少しているため、新規ボランティアの加入に向けて検討する。高齢者支援課で育成している健幸サポーターとの協働。 ②介護予防事業への参加や健康づくりボランティアへの加入。 | B継続 |
| | | 生涯学習推進課 | シルバー元気ゼミ参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 350 828 845 | 人 | ①高齢者が元気で生きがいのある生活をおくるため、健康寿命の延伸を図るとともに、地域活力の促進に寄与することを目的として、毎週月曜日に健康体操やストレッチ等の協働事業を行った。 ②講師を招いての健康体操等 全40回 延べ参加者数795人 体力測定、総会 全2回 延べ参加者数50人 健康寿命の延伸・介護予防に寄与したと言える。 | A順調に進んでいる | ①シルバー元気ゼミはシルバー元気会の意向により、令和6年度からは市との協働事業ではなく、いちサークルとして活動することになった。 ②今後もサークル活動として、自主的な活動をお願いしたい。 | D廃止 |
| 27 | かまがや安心医療ナビ事業 | 健康増進課 | かかりつけ医がいる割合 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 87 89 83 | % | ①医療機関情報の更新 ②情報が変更となった医療機関、歯科医療機関情報の更新など、必要な情報を発信することができた。 | A順調に進んでいる | ①令和6年度から国において、各都道府県が運用する「医療ナビ」の情報を主役とした「医療機能情報提供制度の全国統一的な情報システム」が開始されたことから、令和5年度末をもって、市単独のかまがや安心医療ナビは終了とした。令和6年度以降は、国の医療情報ネットの周知を行う。 ②かかりつけ医を持つこと。 | D廃止 |

取組内容 08]地域における包括的な支援体制づくり

| | | | | | | | | | | |
|----|-----------|--------|------|----------------------------------|-------------|---|--|-----------|--|-----|
| 28 | 地域支えあいの推進 | 障がい福祉課 | 開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 3 3 6 | 回 | ①令和5年度は障がい福祉計画・障がい児福祉計画策定年度ということから、通年の倍になる6回の会議を開催した。テーマ別チーム会議についても、全6チームあわせて31回の会議を開催し、それぞれの課題検討を行った。 ②自立支援協議会では計画策定を行い、テーマ別チーム会議ではガイドブックの改訂や事業所と利用者のマッチングを行うイベントなどが開催できた。 | A順調に進んでいる | ①令和5年度に開催したイベントなど、今後も引き続き実施したいという声もあることから、今後継続的な実施をするか検証が必要。 ②イベントなどは、事業所などのネットワークをつくり、実行委員会形式にするなど市民や地域が主体的に動いていけるように取り組む。 | B継続 |
|----|-----------|--------|------|----------------------------------|-------------|---|--|-----------|--|-----|

取組内容 09]地域福祉コーディネーターの配置と相談体制の充実

| | | | | | | | | | | |
|----|--------------|---------|--------|----------------------------------|----------------|---|---|--------------------|--|-----|
| 29 | 地域福祉コーディネーター | 社会福祉協議会 | 事務局会議等 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 18 13 14 | 回 | ①地区社協事務局会議(8回)や地区社協連絡会(3回)を通し、各地区の情報共有を図った。3回実施した連絡会のうち1回は研修会とし、「サロン事業に関する情報交換」を開催した。 また、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練では、災害ボランティアセンターにおける各係の役割を学ぶため、地区の役員等とともに事務局員も訓練に参加した。 ②サロンにおける研修会での実践的な学びや、各地区の取組について情報共有を図ることで、事業内容が固定化せず、変化をつけて実施することができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①運営委員の高齢化や、役割の重複等により、委員の負担が大きくなっている。また、コロナ禍で始めた取組とコロナ以前からの取組との両方の事業を実施することで、事業量が増加している。 ②運営側へのボランティアなど、地域活動へのご協力をいただきたい。また、必要な方が参加できるよう、事業への参加を促していただきたい。 | B継続 |
|----|--------------|---------|--------|----------------------------------|----------------|---|---|--------------------|--|-----|

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|---|---------------------------|---------|----------------------|----------------------------------|----------------------|----|---|--------------------|---|-------|
| 取組内容 10]乳幼児、児童から高齢者まで地域で見守る体制の充実 | | | | | | | | | | |
| 30 | 民生委員・児童委員活動への支援 | 社会福祉課 | 民生委員・児童委員の実数(4月1日時点) | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 153 153 151 | 人 | ①欠員地区に2名の推薦があり、8/1付けで2名を委嘱した。 また、一斉改選後の年だったため、各地区で行政研修を実施した。 ②欠員が解消されたことで、民生委員・児童委員の活動がより充実した。 また、行政研修により、特に新任の民生委員・児童委員は福祉に対する知識・理解が深まり、活動の向上につながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①令和7年度に予定されている一斉改選に向け、自治会への依頼、推薦地区準備会の立ち上げ等、必要な準備をしていく。 ②自分の住んでいる地域の民生委員・児童委員を知っていただけるように、民生委員と自治会が協力して活動していただきたい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | 相談・支援件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 827 971 852 | 件 | ①対面による地域の見守り活動や安否確認、啓発活動を行った。また、一斉改選後のため、各地区にて行政研修を行った。 ②見守り活動や安否確認をきっかけに、他のサービスにつなげることができた。新任の民生委員・児童委員の識見の向上につながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①各地区にて新任民生委員・児童委員の育成にあたっては、また、定例会や研修会への参加や、活動記録の記入方法など識見の向上に努める。 ②地域住民に担当の民生委員・児童委員を知っていただき、民生委員・児童委員が安心して見守り活動や安否確認をできるようご理解をご協力をいただきたい。 | B継続 |
| 31 | 地区ふれあい員制度への支援 | 市民活動推進課 | 地区ふれあい員委嘱数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 467 430 407 | 人 | ①自治会連合協議会会長が地区ふれあい員を委嘱した(407人)。地区ふれあい員のつどいを開催した。 ②地域の見守りの強化につながった。 | A順調に進んでいる | ①地域福祉ネットワークの充実 ②地区ふれあい員による地域の見守り | B継続 |
| 32 | 乳児家庭全戸訪問事業、保健推進員活動 | 健康増進課 | 乳幼児全戸訪問率 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 97.6 93.8 99.3 | % | ①新生児訪問、保健推進員訪問、保健師訪問等にて乳児のいる家庭に全戸訪問を実施した。また、外部講師による講演や市内施設の見学等を取り入れた研修会を毎月実施し、保健推進員の資質向上に務めた。 ②99.3%の乳児のいる家庭に訪問することができ、必要な人を早期に支援につなげることができた。また、訪問できていない市民についても、地区担当保健師が状況を把握した。 | A順調に進んでいる | ①市民への連絡や訪問方法について時代に即した活動内容の検討が必要である。また、事業の目的や重要性を理解し、必要な支援につなげられるよう保健推進員やそれを支援する保健師の資質の向上を図る。 ②必要な支援が受けられるよう、かまっこすくすくアプリの登録や母子健康手帳発行時や出生票提出時の面談等で紹介のあった、乳児家庭全戸訪問事業を利用する。 | B継続 |
| 33 | 妊娠、出産及び育児期における養育支援家庭の早期把握 | 健康増進課 | 関係機関につなげた件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 118 63 147 | 件 | ①利用者支援事業(母子保健型)を継続。保健師等による妊婦全数面接や、妊娠7か月アンケート、乳児健康相談・幼児健康診査等の母子保健事業を通して、支援が必要な家庭を把握し、必要な機関につなげた。また、リスクアセスメントシート用い早期から関係機関と連携し、支援を行った。 ②妊娠期から様々な母子保健事業を通して、切れ目のない支援を行うことができた。 | A順調に進んでいる | ①継続支援の必要な場合については、課内で情報共有をするとともに、関係機関と連携したケースについては、リスクアセスメントシートの活用や連絡会等を通し、継続してその後の支援の方向性を確認し支援を行う。 ②地域のボランティアや相談者へ各サービスや相談窓口、かまっこすくすくアプリを知ってもらい、必要な時に活用すると共に、他の市民にも利用出来るよう伝えていく。 | B継続 |
| 34 | 緊急通報システム事業 | 高齢者支援課 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 51 59 74 | 人 | ①緊急通報システムについて、市民からの申請に基づき、調査等を実施し、新たに20件設置した。 ②緊急通報システムを設置することで、高齢者への緊急時における支援が可能となった。なお、15件の緊急通報があり、事業者によって適切に対処を行った。 | A順調に進んでいる | ①高齢者の増加に伴い、新規の設置相談は増加しているが、引き続き、広報紙や市ホームページ等を通じて、事業の周知を図っていく。 ②緊急通報システム設置にあたり、近隣に住む方に緊急対応時に消防や業者と連絡を受けてもらう協力員の同意に協力をお願いいただく。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|--------------------|--------|------------|----------------------------------|----------------|----|--|-----------|--|-------|
| 35 | 徘徊高齢者位置情報提供サービス事業 | 高齢者支援課 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 17 15 11 | 人 | ①認知症の高齢者が徘徊等により所在が不明となったとき、現在位置をある範囲で特定し、情報を提供するサービスを実施した。 ②徘徊のある高齢者に位置検索機を貸し出し、介護者の負担を軽減させることにつながった。 | A順調に進んでいる | ①徘徊のある高齢者が端末機を身につけていないと効果がない。 ②地域での認知症への理解を深め、見守りをお願いしたい。 | B継続 |
| 36 | ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業 | 高齢者支援課 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 48 49 51 | 人 | ①ひとり暮らしの高齢者世帯で、認知症や調理困難、または低栄養状態な方に対して、昼食・夕食を週2回配達しており、昨年度は51人に対して配食を行った。 ②栄養のバランスのとれた食事を訪問により定期的に提供することで、食生活の改善や健康増進が図られたほか、利用者の安否確認を行い、生活を支えることに繋がった。 | A順調に進んでいる | ①高齢者世帯や調理困難な方等が増加しており、利用者数は増加しているが、引き続き広報紙や市ホームページ等を通じて、事業の周知を図っていく。 ②身近な方で利用対象者がいた場合、事業の周知をお願いしたい。 | B継続 |

施策4 福祉サービス等に関する相談支援体制を充実します

取組内容 11]高齢者の相談支援体制の充実

| | | | | | | | | | | |
|----|----------------|--------|------|----------------------------------|--------------------|---|---|--------------------|--|-----|
| 37 | 地域包括支援センター(再掲) | 高齢者支援課 | 相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 334 386 1141 | 件 | ①権利擁護(成年後見・虐待・支援困難ケース)、介護予防ケアマネジメント及び地域ケア会議等を行った。 ②各地域包括支援センターに訪問依頼を行い、医療や介護サービス等に迅速に繋げることができた。基幹型地域包括支援センターが直接訪問し、対応することもできた。各地域包括支援センターと基幹型包括支援センターが連携し役割分担や迅速な対応ができるよう協力調整することができている。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①迅速かつ明確に支援ができるよう各地域包括支援センターと基幹型地域包括支援センターの連携を強化する。市で実施している事業内容を把握し適切なサービスに繋げるよう取り組む。 ②共生社会、地域包括ケアシステムの理解をしていただき、地域全体で高齢者の見守り体制を整えて、必要時に関係機関に情報提供できるようにしていただきたい。 | B継続 |
|----|----------------|--------|------|----------------------------------|--------------------|---|---|--------------------|--|-----|

取組内容 12]子育ての相談支援体制の充実

| | | | | | | | | | | |
|----|--------------|--------|------------------|----------------------------------|-------------------------|----|---|-----------|--|-----|
| 38 | 利用者支援事業 | こども支援課 | 設置箇所数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1 1 1 | 箇所 | ①子育て支援コーディネーターを配置し、教育・保育施設や地域子育て支援事業等の利用者に対して情報提供や助言を行うとともに、地域の子育て資源の育成を図った。 ②利用者支援事業については、週3回程度実施した。また、公共施設における出張窓口については、年間計12回実施し、昨年と比べ利用者増となった。 | A順調に進んでいる | ①子育て支援コーディネーターの資質の向上及び子育て世代が求めている情報やニーズを把握し、相談業務の充実を図る。 ②子育て世代のニーズを把握するため、子育て支援コーディネーターの存在の周知に協力をお願いしたい。 | B継続 |
| 39 | 妊産婦に対する訪問・相談 | 健康増進課 | 妊産婦に対する訪問・相談実施件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1,376 1,417 2,068 | 件 | ①母子健康手帳交付時に保健師・助産師による全数面接を行うとともにセルフプランシートを作成し、必要時、妊産婦訪問、相談、他機関へつなげる等、切れ目ない支援を行った。また、。妊娠7か月アンケートを実施し必要時面接・訪問につなげた。さらに早期の母子健康手帳交付となるよう、広報等で広く周知を行った。 ②母子健康手帳交付時に専門職が全数面接し、支援プランを作成できた。また、リスクアセスメントシートや妊娠7か月アンケートにより早期から支援が必要な妊産婦には電話や訪問等で確実に支援することができた。 | A順調に進んでいる | ①早期に母子健康手帳の交付につながるよう広報やホームページでの周知徹底。セルフプランシートを活用した、きめ細かな情報提供を行うと共に、要支援者を必要な支援に繋げられるよう、職員のスキルの向上と相談しやすい体制づくりに努める。 ②会議等を通し民生委員、主任児童委員、保健推進員等、地域の支援者の方に各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な方をつなげてもらう。広報やホームページを通して必要なサービスを活用する。 | B継続 |
| 40 | 子どもに対する訪問・相談 | 健康増進課 | 子どもに対する訪問・相談実施件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 4,537 5,210 5,380 | 件 | ①出生届出時に母子保健サービス登録票の提出を受け、全数に対し新生児訪問を実施し、必要なサービスに繋がった。その後も支援が必要な乳幼児には、保健師訪問等で相談・指導を実施した。また、乳幼児健康相談・健康診査は全数通知をすると共に、未受診者へは訪問や面接・電話にて支援を実施した。支援する側のスキルを向上させるため、定期的に研修会を実施した。 ②健康管理システムから出生届を提出した人の一覧を作成することで、もれなく新生児訪問につなぐことができ、その後も乳児全戸訪問や健康診査等で切れ目のない支援を行うことができた。 | A順調に進んでいる | ①母子保健サービス登録票の提出時の面接、乳幼児健康相談・健康診査未受診者への対応を継続し、必要な支援・サービスにつなげる。研修会の実施等で、継続して職員の面接技術の向上を図る。 ②民生委員、主任児童委員、保健推進員等、地域の支援者の方に各サービスや相談窓口を知ってもらい、必要な方をつなげてもらう。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|----|-------------------|-----------|----------------|----------------------------------|----------------------------|----|--|--------------------|--|-------|
| 41 | 子どもの教育に関する相談 | 学校教育課 | 心理発達相談員の相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 733 792 704 | 件 | ①新規の相談申込の対応と、継続的な相談を電話及び面談にて実施した。 新規の相談については、学校での面談時に学校から保護者へ相談を勧めてもらう他、年間を通した広報紙による相談窓口の周知や、こども発達センターとの連携を図った。 ②継続相談のケースの中で、不登校となっている児童が保護者と一緒に来庁し、活動することもあった。不登校児童生徒の居場所を提供することができた。 | A順調に進んでいる | ①10月から心理発達相談員が増えたが、1名が8月から産休・育休に入り、替わりの人員が確保できていなかったため、相談件数が伸びなかった。市内全体の児童生徒数の減少は159人(2%減少)だったことから考えると、相談件数が減少(11%)したこととなる。相談1件について時間も要するようになってきており、一概に件数を増やすことは難しい。 ②相談内容が多様化、複雑化しているケースも増えており、保護者と協力しながら、学校やこども発達センター等関係機関には連携を図っていただきたい。 | B継続 |
| 42 | 家庭児童相談室 | こども総合相談室 | 相談受付件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 16,132 19,218 18,297 | 件 | ①子どもと家庭に関する身近な子育ての相談から児童虐待に至る深刻な相談まで対応した。 ②相談内容に応じて、関係各所と連携し、迅速な支援を実施することができた。 | A順調に進んでいる | ①児童虐待相談対応においては、継続的な対応が必要であり、職員の専門的知識、対応技術の向上が必要である。 ②子育てに悩んでいる親や、児童虐待を疑われる子どもに気づいた際にはご連絡をお願いしたい。 | B継続 |
| 43 | 児童センター・保育園による相談事業 | 子育て支援センター | 電話・サロン等での相談 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 565 593 354 | 件 | ①子育て支援センター・各児童センターにおいて実施するつどいの広場や子育てサロンでの相談の他に、電話相談を受け付ける。 ②保護者との何気ない会話から相談まで寄り添って聞くことで子育ての不安感の軽減につながっている。 内容によっては関係機関につなげ支援の輪を広げる。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①保護者からの相談を受ける職員や子育てアドバイザーの質の向上が必要。 ②地域で孤立したり悩んでいる親子に子育て支援センターや児童センターの利用を進めてほしい。 各関係機関との連携や情報の共有を行う。 | B継続 |
| | | 各児童センター | 電話・つどいの広場等での相談 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 598 733 843 | 件 | | | | |
| | | 各保育園 | 電話・園庭開放等での相談 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 445 537 342 | 件 | | | | |
| 44 | 子どもの発達に関する相談 | こども発達センター | 相談・支援件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 3,502 3,559 3,938 | 件 | ①療育支援として、専門職による相談を実施した。(電話、来所、施設への訪問) 指定障害児相談支援事業所では、福祉サービスの利用に向けての基本相談、計画相談を実施した。 ②子どもの発達に関する相談機関として、保護者や関係機関からの相談を受け、子育て環境を整える支援を行った。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①保護者からの相談のほか、地域の保育の現場からも障がい児の早期発見、早期対応のための専門職の助言の希望が増えている。 ②発達障がいやその特性のある子どもを地域全体で支えていくために、支援が必要な子どもや保護者に利用を勧めていただきたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|-------------------------------|---------------|--------|------------|----------------------------------|----------------------------|----|--|--------------------|---|-------|
| 取組内容 13]障がい者の相談支援体制の充実 | | | | | | | | | | |
| 45 | 障がい者相談支援事業 | 障がい福祉課 | 相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 15,935 15,799 19,640 | 件 | ①1事業所と、基幹相談支援センターに相談業務の委託を行い、障がい者や家族からの相談に応じ、必要な援助や機関に繋ぎ、障がい者の日常生活における自立、社会生活の向上を図った。 ②相談件数の増加や多様化に対応することができた。 | A順調に進んでいる | ①相談件数が増加していることから、相談支援体制の強化や質の向上が課題となる。相談員への研修を実施し、相談者が必要な機関へ、適切につなげることができるように、取り組む。 ②基幹相談支援センターの体制強化及び相談委託事業所を含む連携を強化する。定期的な連絡会を実施し、情報共有と事例検討を行う。 | B継続 |
| 取組内容 14]健康に関する相談支援等の充実 | | | | | | | | | | |
| 46 | 健康相談事業 | 健康増進課 | 健康相談実施数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 2,610 3,387 1,877 | 人 | ①新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、中止していた各種健康講座等を再開し実施した。(R3、4年度の実績値には新型コロナウイルス感染症及び新型コロナウイルスワクチンに対する相談も計上。) ②個々の問題に寄り添った助言や関係機関につなげ、健康づくりや問題解決へとつながった。 | A順調に進んでいる | ①多様化する相談に対応できるよう個々のスキルアップを図る。 ②身近な人が健康に関する事等で悩んでいる人がいたら、相談窓口を紹介して欲しい。 | B継続 |
| 施策5 生活困窮者の自立支援を進めます | | | | | | | | | | |
| 取組内容 15]生活困窮者への自立支援 | | | | | | | | | | |
| 47 | 自立相談支援事業 | 社会福祉課 | 支援プラン作成件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 97 58 54 | 件 | ①経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人に対し、専門の支援員が一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、住居確保給付金の案内や保険料の分納相談、社会福祉協議会への貸付の案内や求人紹介による就労支援などを行った。71件の新規相談を受け付け、54件の支援プランを作成した。 ②経済的困窮者の自立の支援につなげた。 | A順調に進んでいる | ①相談者が困窮状態から早く抜け出せるよう、関係機関との連携や各種制度の利用につなげていく必要がある。 ②複合的な課題を抱える相談者に対応するため、地域における支援機関や団体とのネットワークづくりを進めていきたい。 | B継続 |
| 48 | 住居確保給付金の支給 | 社会福祉課 | 支給決定者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 107 12 11 | 人 | ①コロナ禍で緩和した支給対象要件の一部が引き続き適用されることとなり、対象者の枠は広がったが、社会情勢回復もあり、支給決定者数は横這いだった。11人に対し適切な支援を行った。 ②社会情勢回復に伴い、会社都合による減収で申請する者は減少傾向にあった。離職者は申請後、求人が豊富なことから早期の常用就職に就くことが多く、受給期間も減少傾向であった。 | A順調に進んでいる | ①今後別の支援を受けた際に、必要に応じて再支給の案内を周知する。また、新たな制度改革があった際には迅速に対応を行う。 ②新しい制度などの情報共有を図り、利用を促進したい。 | B継続 |
| 49 | 就労準備支援事業 | 社会福祉課 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 6 16 46 | 人 | ①生活習慣の見直しや履歴書の書き方などの内容の講座を実施した。また、感染症対策に配慮して、職場見学などを実施した。 ②講座を全12回実施し、職業体験も2回実施した。申込者は7名、延べ参加者数は46名(生活保護受給者含む)に参加いただくことができ、就労に向けた事前準備や就労に対する意欲喚起をすることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①令和4年度より利用者数は増加したが、これまで講座中心に運営されており、本来の就労準備支援事業のあり方からすると、ごく一部の内容であるため、引き続き支援が必要な人に対し積極的な参加を促しつつ、職場体験を実施するなど事業内容の見直しを図る。 ②地域で仕事をしておらず、引きこもりなど社会とのかかわりが希薄な人がいた場合は、本事業を紹介していただきたい。 | B継続 |
| 50 | 子どもの学習・生活支援事業 | 社会福祉課 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 34 20 9 | 人 | ①生活困窮世帯における、小学4年生から中学3年生までの児童生徒を対象とし、基礎学力向上と安心して過ごすことのできる居場所の提供を目的として、こどもの学習・生活支援事業を自習形式で実施した。 ②小学生が3人、中学生が6人の合計9人に参加いただくことができ、学力向上等の支援を行うことができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①令和4年度より利用者数が減少しており、対象者に対しての周知を工夫するなどの対応が必要となるため、チラシの見直しや関係機関と連携を図り対象者へ積極的に周知を行う。 ②事業を利用する児童生徒の保護者と意見交換し運営していくため、意見等があれば積極的に提言していただきたい。また、地域で学習の場、生活の場を必要としている児童生徒がいた場合は、子どもの学習・生活支援事業を紹介していただきたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|---------------------------------|---------------|-----------------|----------------------|----------------------------------|-------------------------|----|--|--------------------|--|-------|
| 施策6 地域福祉に関する広範な情報提供を進めます | | | | | | | | | | |
| 取組内容 16]情報提供体制の充実 | | | | | | | | | | |
| 51 | 相談窓口の周知 | 健康福祉部を中心とした各所属所 | 相談窓口の広報掲載件数(市民活動推進課) | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 12 12 12 | 件 | ①各種相談窓口について、広報紙で12回周知した。 ②周知した結果、全体で450件の相談に応じることができた。 | A順調に進んでいる | ①各種相談窓口について、広報紙での周知を継続する。 ②地域のふれあいのなかで、困っている人に各種相談窓口を紹介していただきたい。 | B継続 |
| | | | チラシ配布枚数(社会福祉課) | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1,480 1,500 1,500 | 枚 | ①生活や子育て、ボランティアなどに関する窓口を周知するための「さまざまな相談窓口(鎌ヶ谷市)」のチラシを関係所属所に配付し、市民周知を図った。 ②1,500枚のチラシをし、各種相談窓口の周知を図ることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①チラシに記載している窓口の情報について、定期的な更新が必要である。また、周知方法について検討する必要がある。 ②相談窓口がわからず困っている方がいた場合は、相談窓口を周知していただきたい。 | B継続 |
| 52 | 広報紙等の充実 | 広報広聴室 | 広報発行回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 28 24 24 | 回 | ①「広報かまがや」の定期的な発行(市ホームページへの掲載、SNSでの告知、スマートフォン用アプリ「マチイロ」での配信を含む)、新聞未購読世帯の希望者へのポストイング実施、公共施設や駅への配置、声の広報の実施、フォントの変更や全ページカラー化などを行い、より読みやすく親しみのある紙面デザインの実施。 ②市の施策や行事、市民の自主的活動等の市民生活に必要な情報を提供し、市政への理解と協力を得ることに資する広報紙を発行することができた。また、「広報かまがやカラーユニバーサルデザイン(CUD)適用マニュアル」に基づいた、誰もが分かりやすい色づかいとすることによって、高齢者、視覚障がい者等にも見やすい紙面とすることができた。 | A順調に進んでいる | ①障がいの有無等に関わらず、より多くの読者に市政情報等について周知するために、「広報かまがやカラーユニバーサルデザイン(CUD)適用マニュアル」に沿った広報紙の発行を継続する。また、文字情報だけではなく、効果的なイラストや写真を掲載するなどし、視覚的にもより読みやすく親しみの持てる広報紙を発行する。市政情報を全ての市民に確実に届けるため、配布方法の拡充に取り組む必要がある。 ②声の広報を、引き続き朗読ボランティアと協力して作成し、視覚障がい者へ配布する。 | B継続 |
| 53 | 市ホームページの管理・運営 | 広報広聴室 | 市ホームページ更新件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 4,531 3,362 3,157 | 件 | ①各所属が主体的にコンテンツ作成・更新作業ができるように、各種問合せや相談に対し、きめ細かく対応した。 ②ウェブアクセシビリティに配慮したコンテンツ作成について、職員間の共通認識を深め、わかりやすい情報発信に努めることができた。 | A順調に進んでいる | ①今後も誰もが利用しやすいホームページとなるよう、ウェブアクセシビリティに配慮し、市民に見やすく分かりやすい行政情報の提供を行っていく。 ②市民生活に必要な情報や本市の魅力を積極的に発信し、「各課への「お問い合わせメールフォーム」及び「市長への手紙(ウェブ版)フォーム」を通して今後も意見などを受け付ける。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|--|-----------------|--------|--|----------------------------------|----------------------------|----|--|--------------------|--|-------|
| 基本目標3 安全で安心して暮らせる仕組みを推進します | | | | | | | | | | |
| 施策7 避難行動要支援者への支援等防災対策を進めます | | | | | | | | | | |
| 取組内容 17]災害時に支援が必要な人の把握と安全確保策の推進 | | | | | | | | | | |
| 54 | 避難行動要支援者避難支援事業 | 社会福祉課 | 同意者数 (要支援者のうち、地域で情報共有することについて同意した者) | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1,891 2,261 2,687 | 人 | ①避難行動要支援者に対して、避難支援制度の意思確認を行い、作成した名簿を、民生委員や協定を締結した自治会等の地域の支援者に提供した。 また、本制度に対する理解を深めてもらうことを目的とし、自治会向けの説明会を行った。 ②自治会説明会実施後、新たに協定を締結することができ、協定自治会数が増えた。 また、同意者の増加にもつながった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①同意者名簿を提供するための協定を締結していない自治会に対して、引き続き説明会等を通じて、避難支援制度の周知を行う。 ②地域で高齢や障がいなどの理由により、災害時に1人で避難することが難しい人がいる場合には、避難支援制度を周知していただきたい。 | B継続 |
| 取組内容 18]防災対策の充実強化と防災意識の高揚 | | | | | | | | | | |
| 55 | 地域防災計画 | 安全対策課 | 地域防災計画の改訂回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 0 1 | 回 | ①令和3年4月より改訂作業を開始し、改訂案のパブリックコメントを実施し、防災会議を開催し令和6年2月に地域防災計画の改訂を行った。 ②災害対策基本法の改正に伴う修正など地域防災計画の改訂を行った。 | A順調に進んでいる | ①地域防災計画に検討を加え、必要があると認めるときは改訂作業を実施する。 ②大規模な災害が起こると、市の準備だけでは対応しきれないこともあり、市民や企業との協力が必要となる。有事の際に備え、自身や家庭、事業所で日常から準備をしていたきたい。 また、災害が発生した時には、家族はもとより地域の方々と連携して、初期消火、付近の高齢者などにも声を掛けあい避難をし、避難所運営に協力して助けあっていたきたい。 | B継続 |
| 56 | 総合防災訓練 | 安全対策課 | 参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 0 2071 | 人 | ①令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響で訓練を中止していたが、4年ぶりに訓練を実施することができた。 ②防災啓発を行うことにより、市民の防災意識が向上した。 | A順調に進んでいる | ①継続して総合防災訓練を実施していく。 ②市民一人ひとりの防災意識、防災行動力を向上させ、市民の生命、財産を災害から守り、安全で安心な生活を確保することを目的としているため、多くの市民に積極的に参加していただきたい。 | B継続 |
| 57 | 社会福祉センター(福祉避難所) | 高齢者支援課 | 広報依頼件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 8 8 8 | 件 | ①施設改修として、浄化槽修繕を実施した。また、緊急時の対応として、消防避難訓練を2回実施した。 ②既存不適格の箇所が解消されるとともに、福祉避難所としての機能の充実が図られた。 | A順調に進んでいる | ①有事の際に福祉避難所としての機能を適切に活用できるよう消防避難訓練に加えて、福祉避難所の開設等に関する訓練を行う。 ②社会福祉センターが福祉避難所として指定されていることを周知いただく。 | B継続 |
| 取組内容 19]災害発生時の迅速な情報伝達、かまがや安心eメールの登録促進 | | | | | | | | | | |
| 58 | かまがや安心eメール | 安全対策課 | 登録者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 10,598 11,489 12,150 | 人 | ①広報かまがや(毎号:年24回)に登録用QRコードを掲載し、市ホームページに登録案内ページを掲載した。また、案内チラシの自治会回覧を7月に行った。 ②令和3年度末に11,489人だった登録者が、令和4年度末には12,150人となり、661人増加した(防災情報7,367人・防犯情報4,783人 ※重複登録者あり)。 | A順調に進んでいる | ①かまがや安心eメールの登録者をさらに増やすため、啓発活動を継続する。 ②かまがや安心eメールは、防災・防犯関係の重要な情報を配信しているため、地域においても登録を啓発していただきたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|-----------------------------------|-----------------------|---------|-------------|----------------------------------|-------------------------------|----|--|-------------------------|--|-------|
| 施策8 安全で暮らしやすいまちづくりを進めます | | | | | | | | | | |
| 取組内容 20]安心・安全な道路環境と移動手段の確保 | | | | | | | | | | |
| 59 | 道路・歩道等の整備 | 道路河川整備課 | 整備延長 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1,585 1,500 371 | m | ①道路の整備(道路の新設、改良)をL=371m実施した。 ②道路環境が改善され、利便性の向上や、振動及び騒音等の軽減に繋がった。 | 〇実施されている部分もあるが、不十分な点が多い | ①歩道の整備等、道路拡幅が必要な事業には用地買収が伴うことから、多額の費用や多くの年月を要する。そのような中、国からの交付金の内示率が低く、十分な財源の確保が難しい状況であることから、限られた費用の中で成果を挙げられるよう事業に取り組んでいく。 ②特になし | A充実 |
| 60 | 安全な歩行空間の確保 | 道路河川管理課 | 看板撤去枚数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 57 46 | 枚 | ①市内の主要幹線道路及び駅前広場等にて違法看板の合同撤去を行い46枚撤去を行った。 駅周辺の放置自転車等の撤去作業を51日行い、129台撤去した。また、市内小学校第5、6学年及び市内中学校全学年の生徒に対して、自転車の放置禁止を呼び掛けるパンフレットを配布した。 ②外出時の自転車需要が増加している中で、放置自転車の件数増加を抑えることができた。 | A順調に進んでいる | ①昨年度と比較して放置自転車等の台数は増加しているため、引き続き対策を実施する。 ②職員による見回りは実施しているが、市民による通報も貴重な情報源であることから、違法看板や放置自転車等を発見しそれらが通行の支障になっている場合は市へ通報していただけると幸いである。 | B継続 |
| | | | 自転車撤去台数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 106 115 129 | 台 | | A順調に進んでいる | | B継続 |
| 61 | 通学路安全対策推進行動計画に基づく各種事業 | 学校教育課 | 児童生徒の交通事故件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 9 16 18 | 件 | ①第4次通学路安全対策推進行動計画に基づき、令和5年度の安全施設等の設置工事については、グリーンベルト、区画線の補修や、横断歩道のカラー化、ラバーポールを設置した。 ②通学路整備にあたり学校や道路管理者などと協議を重ね、計画的に実施した。指標の数値では前年比で増加したが、引き続き整備を行っていく。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①児童生徒の事故件数が減少していくように、今後も安全施設等の設置工事、子ども自転車安全運転講習会、スクエアード・ストレイト自転車交通安全教室を通じて、ハード面とソフト面の両面から安全対策を実施していく。 ②安全対策が必要と思われる通学路があれば、地域からも学校を通じて要望していただきたい。 | B継続 |
| 62 | コミュニティバス運行助成事業 | 都市政策室 | 利用者数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 106,672 121,755 135,607 | 人 | ①令和5年度から、鎌ヶ谷市民対象運転免許自主返納割スタート。 新鎌ヶ谷駅ききょう号バス停留所に上屋・ベンチを設置 ②令和5年度のコミュニティバスききょう号の利用者数が、コロナ禍前で最も多かった令和元年度に比べ3,764人増加し、135,607人で過去最高人数。 運転免許証自主返納割の申請者は361人で、返納割利用者は9,058人と、多くの方が利用。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①コミュニティバスを維持するため、引き続き運行補助を行う。 令和6年度、東武鎌ヶ谷駅ききょう号バス停留所に上屋・ベンチを設置予定。 令和8年度からの運行を令和5年度から開始したコミュニティバス運営検討委員会にて協議。 ②コミュニティバスを多くの市民が利用することで持続可能な運行を継続する。 | A充実 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|-------------------------------------|-------------------|-------|----------------|----------------------------------|---------------------|----|---|--------------------|--|-------|
| 取組内容 21]地域による防犯体制の構築と防犯意識の高揚 | | | | | | | | | | |
| 63 | パトロール体制の構築 | 安全対策課 | 自主防犯パトロール隊員数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1,068 987 999 | 人 | ①チラシ、市ホームページ等で自主防犯パトロール隊員の募集を行った。 ②随時、自主防犯パトロール隊への新規参加があった。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①自主防犯パトロール隊の団体数が37団体から39団体となり、隊員数が増加した。隊員の平均年齢が高いため、引き続き様々な方法により隊員を募集する。 ②地域の自主防犯パトロール隊に、積極的に参加していただきたい。 | B継続 |
| 64 | 夜間防犯パトロール事業 | 安全対策課 | 通報件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1 1 2 | 件 | ①青色回転灯付防犯パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを262日実施した。 ②重点活動地域の指示を7件、警察への通報を2件行った。 | A順調に進んでいる | ①市内刑法犯認知件数は4年連続で減少していたが、令和5年は増加し578件となった。今後も継続して犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続して実施する。 ②自分や自宅で可能な犯罪防止対策を行っていただくとともに、近隣の防犯上危険な箇所等の情報を提供していただきたい。 | B継続 |
| 65 | 防犯サテライト事業 | 安全対策課 | 防犯サテライト事業の実施回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 5 9 5 | 回 | ①駅前でのチラシ配布や団体の依頼による詐欺の実演等の防犯サテライト事業を5回実施した。 ②電話de詐欺対策や防犯に関する意識の向上を図ることができた。 | A順調に進んでいる | ①事業の実施には、依頼団体との調整等が必要となるが、電話de詐欺の被害根絶に向けて、警察・防犯協会と連携し、啓発活動を継続する。 ②犯罪被害の防止のため、家族や近所の高齢者への注意喚起や声掛けをしていただきたい。 | B継続 |
| 66 | 児童生徒安全パトロール事業 | 学校教育課 | 不審者情報件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 53 59 58 | 件 | ①犯罪に巻き込まれることのないよう、児童生徒の下校時に合わせ、2人で1班編成として車両(青色パトロールカー)2班、徒歩を1班増やし4班でパトロールを行った。 ②不審者情報が入った場合、直接パトロール員に情報提供し、学校や市青少年センターとも情報共有するなど、迅速に周辺パトロールを実施した。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①地域の方々の見守り活動について情報共有を行い、市内全域で防犯活動の空白地帯ができないように、見守りをさらに強化していく必要がある。 ②パトロール員だけでなく、かまがや83プラス運動などを通じ、地域全体で子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。 | B継続 |
| 67 | 青色回転灯付防犯パトロール車の活用 | 学校教育課 | 不審者情報件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 53 59 58 | 件 | ①各小中学校区に青色パトロールカーを設置し、教職員を中心に活動を行った。また、教育委員会側でも学校への訪問時には、児童生徒の登下校時間帯に合わせた巡回を行うことや、不審者情報のあった箇所の見守りを行った。 ②不審者情報があった箇所に対し、学校の教職員と教育委員会の職員による見守りを行った。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①特に学校の教職員による登下校時のパトロール実施は負担が大きい、教育委員会の職員と共に、児童生徒の見守りを積極的に行う必要がある。 ②不審者情報等は、各中学校区安全ネットワーク会議での情報共有や警察への情報提供を行うなど、地域全体で子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。 | B継続 |
| 68 | 安全ネットワーク会議 | 学校教育課 | 不審者情報件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 53 59 58 | 件 | ①市内5つの中学校区において学校主催で開催し、通学路上の安全対策や防犯対策が必要な箇所、地域のボランティアの方の活動状況などを情報共有した。また、鎌ヶ谷警察にも出席いただき、交通面・防犯面で指導をいただいた。 ②交通面・防犯面で注意・対策を要する箇所を理解し、関係者間で共有することができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①安全ネットワーク会議での情報共有を通じて、防犯活動の空白地帯がでないようにしていく必要がある。 ②自治会など地域において、子どもたちを見守る意識を高めてもらいたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|---------------------------------|--------------|---------|--------------|----------------------------------|--------------|----|---|-------------------------|---|-------|
| 施策9 成年後見制度の利用促進を進めます | | | | | | | | | | |
| 取組内容 22]制度の周知と運用体制づくりの推進 | | | | | | | | | | |
| 69 | 成年後見制度の周知と活用 | 高齢者支援課 | 研修会や講習会による周知 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 1 1 | 回 | ①市民後見人養成講座を開催した。 ②7名の市民後見人を養成することができた。 | 〇実施されている部分もあるが、不十分な点が多い | ①今後も引き続き講座を開催していくと同時に、講座終了後の活動について検討する。 ②制度が知らない方がいたら周知してもらいたい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | 講演会の開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 0 0 | 回 | ①講演会は実施しなかったが、昨年度に引き続き司法書士の協力を得て「成年後見制度・遺言個別相談会」を市内7か所で計8回実施した。 ②相談会では計21件の相談に応じることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①広報紙やチラシで啓発に努める。また、成年後見制度利用促進のためパンフレットの配布で制度の周知に努める。 ②相談会実施案内を広報紙やチラシで啓発するので、周知の協力をお願いしたい。 | B継続 |
| 70 | 成年後見制度利用支援事業 | 障がい福祉課 | 申し立て件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 1 3 3 | 件 | ①3人に対し、成年後見人市長申し立てを行った。 ②審判により成年後見人を選出することができた。 | A順調に進んでいる | ①成年後見制度が必要な方は今後増えると考えられるため、市の申し立ての件数も併せて増加する可能性があることから、引き続き、家族の方への申し立ての依頼、その際には後見人候補者として希望するか調査を行う。事務を円滑に進めるためには研修等への参加が必要。 ②後見人制度の周知を積極的に行っていく。 | B継続 |
| | | 高齢者支援課 | 申し立て件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 9 10 8 | 件 | ①身寄りがなく申立てが難しい方に対して市長申し立てを行う。 ②7件の申立てを行い、後見人等が選任された。 | A順調に進んでいる | ①今後も継続的に市長申し立てを行っていく。 ②身近に支援が必要な方がいた場合、関係機関に相談等してもらいたい。 | B継続 |
| 71 | 市民後見人の育成 | 高齢者支援課 | 参加人数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 0 10 7 | 人 | ①全4回の市民後見人養成講座を実施した。 ②7名の市民後見人が養成された。 | A順調に進んでいる | ①引き続き講座を開催し、講座を受けた後の活動場所を検討していく。 ②身近に支援が必要な方がいた場合、関係機関に相談等してもらいたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|--------------------------------------|--------------------|---------|-----------------|----------------------------------|----------------|----|---|--------------------|--|-------|
| 取組内容 23]制度の利用促進につながる本人や家族への支援 | | | | | | | | | | |
| 72 | 日常生活自立支援事業の充実と利用促進 | 社会福祉協議会 | 相談受付件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 19 17 16 | 件 | ①金銭管理に不安があり、成年後見制度を補完するサービスとして、本事業の利用相談に対応した。生活支援員養成研修会に6名参加、市内関係機関連絡会を3月に開催した。 ②新規相談16件、契約者相談・訪問調査延べ回数394件。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①事業内容の周知のため、社協だよりやホームページ等で本事業の啓発に努める。また、市役所・地域包括支援センター・基幹相談支援センター等福祉関係者への啓発に努める。 ②ホームページ、チラシ等で啓発を行っていくので、金銭管理で困っている方がいたら、社会福祉協議会につなげていただきたい。 | B継続 |
| | | | 利用契約件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 15 11 8 | 件 | ①利用契約者8名(高齢者、障がい者) ②特になし | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①契約者の金銭管理について、安心した暮らしが送れることができるよう、今後も事業を継続していく。 ②特になし。 | B継続 |
| | | | 生活支援員数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 10 10 9 | 人 | ①千葉県社会福祉協議会主催のリモート研修会に生活支援員6名が参加。その後、情報交換会を開催した。 ②生活支援員の資質の向上に努めた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①生活支援員の資質の向上及び情報共有等のため研修会の実施。 ②特になし。 | B継続 |
| 73 | 家族に対する支援 | 高齢者支援課 | 開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 4 4 10 | 回 | ①在宅で介護をしている方に対し、情報交換・リフレッシュの機会を提供するため、介護者のつどいを10回開催。 ②介護の悩み・ご自身の体調のことを互いに相談し、リフレッシュする機会になっていた。 | A順調に進んでいる | ①今後も継続し、参加者が増えるよう、周知を行っていく。 ②地域で周知し、参加者を増加させてほしい。 | B継続 |
| | | 社会福祉協議会 | 在宅介護者のつどい等の開催回数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 6 11 11 | 回 | ①在宅で要介護状態の家族を介護している方の、リフレッシュ事業と介護相談等を毎月1回開催した。8月は熱中症予防のため参集での開催をせずに、登録者に対し熱中症対策のチラシ等を送付した。また、登録者へ在宅介護の悩みや参加したいつどい内容などのアンケートを実施し、登録者34名の状況把握に努めた。 ②在宅介護者のリフレッシュにつながる情報提供ができた。介護の悩みを共有し合える場を提供できた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①介護者が参加しやすいリフレッシュにつながる内容を検討し、市民への参加啓発に努める。また、引き続きアンケート等を実施し、登録者の状況把握に努めていく。 ②広報紙等で在宅介護者のつどいについて周知に努めているので啓発の協力をお願いしたい。行政関係機関の協力による介護者のリフレッシュにつながる内容の検討や講師等の協力をお願いしたい。 | B継続 |

| No | 事業名 | 担当課 | 事業の成果を表す指標 | 年度 | 実績値 | 単位 | ①令和5年度に実施した事業 ②どのような成果があったか | 令和5年度の評価 | ①課題や今後の取組 ②協働事項(その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと、手伝ってほしいこと) | 今後の方針 |
|-----------------------------|------------------------------|----------|----------------------------|----------------------------------|-------------------|----|--|--------------------|---|-------|
| 施策10 虐待防止を進めます《重点施策》 | | | | | | | | | | |
| 取組内容 24]虐待防止の推進 | | | | | | | | | | |
| 74 | 高齢者等の虐待防止等権利擁護の取組の推進 | 健康福祉部 | 相談件数(社会福祉課) ※高齢者及びDVの相談 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 30 35 19 | 件 | ①虐待を未然に防止するため、関係機関と連携しながら対応した。 ②虐待の発生防止をすることができた。また、虐待が発生した場合は、関係機関に迅速につなげることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①虐待の発生防止のため、関係機関とより緊密に連携していく必要がある。 ②虐待が疑われる場合は、情報提供をお願いしたい。また、支援を必要とする人に対して、地域での見守りをお願いしたい。 | B継続 |
| | | 男女共同参画室 | 相談件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 73 65 52 | 件 | ①女性のための相談の実施。 ②相談を踏まえ、市の担当部署、支援団体へつなげることができた。 | B概ね順調だが、不十分な点が少しある | ①相談者の抱える問題を解決に導くため、引き続き相談業務を行う。 ②DVIについての意識啓発を行い、困難を抱える人について市民同士が相談先についての知識をもつ。 | B継続 |
| 75 | 児童虐待防止対策等地域協議会による関係機関との情報交換等 | こども総合相談室 | 実務者会議、個別支援会議数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 133 108 72 | 回 | ①児童虐待防止に向けた関係機関の連携を図るため、実務者会議を定期的で開催し、関係機関で情報共有、役割分担について検討を行った。 ②実務者会議4回、個別支援会議68回を実施し、関係機関で情報共有、役割分担について検討を実施した。各会議の実施により、支援の必要性や対応方針について、関係機関と共通認識を持つことにより、連携して迅速に対応することができた。 | A順調に進んでいる | ①支援対象児童の問題が複雑化しているため、効果的な会議の運営方法について検討の必要である。 ②虐待が疑われる家庭がある場合情報提供をお願いしたい。また支援の必要な家庭に対して、地域での見守りをお願いしたい。 | B継続 |
| 76 | 養育支援訪問事業 | こども総合相談室 | 訪問延件数 | R3 R4 R5 R6 R7 R8 | 238 316 247 | 件 | ①子育てに不慣れで不安を持ちながら子育てをしている家庭など、養育支援が特に必要な家庭を訪問して、養育に関する相談指導を行うとともに、保護者の育児、家事等の育児負担軽減に伴う支援を行った。 ②妊娠中から産後早期における家庭をはじめ、乳幼児のいる家庭において、支援員が訪問して、養育に関する相談指導を行った。また孤立している家庭や養育の困難さがみられる家庭に対して育児負担の軽減を行うことで、虐待予防につながった。 | A順調に進んでいる | ①産後うつ等の養育者の体調面や多胎児の養育等、育児への不安を抱える家庭も増加していることから、引き続き、支援が必要な家庭を早期に把握し、迅速な相談支援など実施するとともに、その家庭が地域から孤立しないよう、関係機関との連携が必要である。 ②地域の中で孤立している方や子育てに不安や悩みを抱えている方がいた場合には、連絡をお願いしたい。 また、支援が必要な家庭に対して、地域での見守りをお願いしたい。 | B継続 |